



### CONTENTS

エイズ予防のための戦略研究 ～MSM首都圏グループの取り組みも最終年度～ ...	01
地域における支援者の準備性向上のための取り組み...	02
ネストより 第8回 Women's Salon.....	03
インタビュー集 「HIVをめぐる さまざまな人たち」.....	03
部門報告(2010年1～3月).....	04
2009年度総会・活動報告会のご案内.....	08

## エイズ予防のための戦略研究 ～MSM首都圏グループの取り組みも最終年度～

生島 嗣 (MSM 首都圏グループ事務局)

厚生労働省による戦略研究は、これまでも、糖尿病、自殺、がんなどがこの対象になっている。エイズでは、検査数の倍増、発症でわかる人の25%減少という目標が課せられている。そして、この枠組みで成果を出すことで、政策レベルにも影響を与えることができるといふ、大きなチャンスでもあるのだ。

2006年の秋、市川誠一氏(名古屋市立大)から戦略研究についての相談があった。島尾忠男氏(当時)が主任研究者となり、戦略研究のテーマに「エイズ」が取り上げられるという。これほど大きな研究費が、特にMSM(男性とセックスをする男性)を対象に投じられることは、2度とないと皆が思い、参加を決めた。

その年の市川氏の応募を経て、本格的に啓発を開始したのは、2007年夏の東京プライドパレードからだった。活動の主体は連合チームによる。MSMのあいだで感染が広がっているという厳しい現状認識が様々な立場で活動する4団体を結束させた。HIV陽性者支援、予防啓発、コミュニティセンター運営、HIV検査会の運営、アドボカシー等で活動するRainbow Ring、ぷれいす東京、JaNP+、横浜Cruiseネットワークという団体だ。パレードに先立つ2007年4月、西新宿の貸し会議室に、メンバーが集い、はじめての会議が開かれた。激しい議論の後に導きだされたのは、検査キャンペーンを実施するのであれば、同時に支援的な地域の環境整備が必須だということ。また、情報発信は自分たちだけでなく、コミュニティの様々な人々を巻き込みつつ展開していくことの重要性が確認された。そして、この議論の末に誕生したのが、HIV/エイズの総合情報サイト「HIVマップ」(<http://www.hiv-map.net/>)だ。

これまで首都圏で予防のキャンペーンが行われる場といえば、新宿2丁目が中心となっていた。それを、周囲に広げる活動をこのMSM首都圏グループは行ってきた。東京周辺にある500軒以上のゲイバー・スタッフ向けに情報紙「TOMARI-GI」を制作・配布したり、新橋、上野、横浜、新宿など各地でミーティングを開催するなどだ。活動開始から2年目には、様々なコミュニティのグループ

と共同で冊子を作った。10代向け、依存症を抱える人向け、聴覚障害者向けなどだ。さらに、3年目にはHIV陽性者やパートナー達の参加によるキャンペーンも実施した。様々な人々を巻き込みつつ、啓発を続けている。

それと同時に、MSMの検査の受け易さを改善する取り組みもこの3年行ってきた。東京、神奈川、千葉で検査を担当する保健所や検査所の職員向けに、MSM理解の促進、前もって対応を経験できる研修会を実施し、修了した施設名をwebや冊子の「あんしん検査サーチ」にて公開してきた。

思い返すと、このチームが最初にしたのは、新橋、上野/浅草、渋谷、横浜野毛などのゲイバーを1軒ずつ訪問することだった。僕らなりに事前に郵送で挨拶するなど、準備をしてみたものの、店のスタッフの対応には厳しいものがあった。現実には、僕らの想像を超えていた。「うちは結構ですから」「既婚者が多いから、うちは関係ないね」という拒否反応ともとれる反応が店側からみられた。新宿という街の規範とは大きく異なる現実。まるで、時間がとまっているかのような印象だ。中高年のMSMで発症が多く報告されている現状は、こうした過去に刷り込まれたネガティブなイメージがいまだに支配的で、自分たちの現実と向き合うことがむずかしい地域環境、そのなかにある人たちのなかで多く起きているのだと実感した。

最終年度となる今年度は、発症予防、検査を促すキャンペーン「できる!」を企画している。6月から始動するキャンペーンは、エロティックな写真を使い、これまでに踏込んで来なかった、ハッテン場という出会いを提供する商業施設での展開も視野にいれている。PCや携帯などのweb空間だけでなく、バーやハッテン場、スポーツ・文化・コミュニティイベントなどの機会を活かして、これまでにない、つっこんだ連動キャンペーンを準備中だ。

こうした活動から生まれた取り組みは、今後にも役立つものになることは間違いない。まだまだ課題はたくさんある。もしかしたら時間も必要かもしれない。しかし、確実に変化は始まっている。

# 地域における支援者の準備性向上のための取り組み

「地域におけるHIV陽性等支援のための研究班(研究代表者:生島嗣)」では、地域の支援者のHIV陽性者支援の準備性を向上させるために、研修会の開催、冊子・映像教材の制作などを行っています。それらの取り組みの一部をご紹介します。

「地域におけるHIV陽性等支援のための研修会」を開催前年に実施した東京都内の相談機関957カ所を対象にした質問紙調査の結果、約7割の相談機関から、HIV陽性者への支援に対する準備性を高めるための研修の必要性があるとの回答が寄せられました。そこで、研究班では地域の支援者を対象に2つの研修方法による研修会を実施し、その効果評価を行いました。

東京障害者職業センターの44名の職員の方に参加いただき、講義および参加型ワークショップ形式による2日研修を2回(12/1,2及び12/9,16)、行政・民間窓口担当者52名の方を対象に講義形式の1日研修を1回(2/10)開催しました。

医学的基礎知識やセクシュアル・ヘルスに関する講義や、実際のHIV陽性者支援事例検討などのワークショップ研修の中で、HIVについての知識を増やすことやプライバシーへの配慮、セクシュアリティへの身近感をもち対応方法を知ることが、相談対応への準備性を高めるといった効果が示されました。また、参加者からは「偏見をとりさるチャンスになった」「講師による、自分の価値観とプロとしてやるべきことを切り離してよいという考えに安心した(納得した)」などの感想が寄せられています。

今後はさらに対象者を増やしながら研修を開催し、その効果については対象者の特性も配慮しながら検討していきます。また、こうした成果を支援ツールの形にしてまとめ、広く還元していく予定です。



参加型ワークショップの様子

講義とワークショップによる研修プログラム	講義中心の研修プログラム
<b>[1日目]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの記入&amp;回収</li> <li>アイスブレイキング</li> <li>知識と情報</li> <li>自己覚知のワークショップ</li> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご挨拶と調査協力依頼</li> <li>プログラム評価(事前)</li> <li>知識と情報</li> <li>HIV陽性者支援に求められる技能や配慮について</li> <li>ご挨拶、プログラム評価(事後)</li> </ul>
<b>[2日目]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイスブレイキング</li> <li>リーディングワーク</li> <li>事例ワーク</li> <li>まとめ</li> <li>アンケートの記入&amp;回収</li> </ul>	

## 映像教材の制作

HIV陽性者等への支援に携わる人たちの準備性を高めることを目的とし、映像教材を制作しています。特に、支援者が医学的知識やその周辺分野の情報、陽性者の就労についての情報などを得ることにより、陽性者等への支援に対し自己効力感をもてるように、役立つ支援ツールとなることを目指しています。

医師や企業の人事担当者のインタビュー映像は、行政の研修会などですでに活用されているほか、今後新たに撮影する映像素材を加え、研修会や自己学習など様々な場面で活用できるDVD教材を制作し、支援者(主に行政関係)へ配布することを予定しています。

## インタビュー撮影をした専門家のみなさん

### [医学的基礎知識]

医師：根岸 昌功  
(ねぎし内科診療所)

### [支援者]

企業の人事担当者：匿名

看護師：大金 美和  
(国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター(ACC))

ソーシャルワーカー：岡本 学  
(大阪医療センター 医療相談室)



## 冊子「15人の語りで学ぶ HIV陽性者と地域生活 ~事例から支援を考える」を発行



さまざまな生活を送る15人のHIV陽性者の声を紹介している

本冊子では、おもに就労と精神健康(薬物使用)に関する事例を紹介しています。外来看護師やソーシャルワーカーなど、医療の現場でHIV陽性者を支援する人たちを対象に前年度に実施したインタビューの中で、「支援が難しいもの」としてあげられたテーマです。事例ごとに問題の整理と支援のポイントが書かれていますので、事例をもとに、「この事例では、何がよりよい方向へ向かうポイントとなり、どんな点がHIV陽性者の生活を妨げているのだろうか」と考えたり、「自分(の職場)なら、どんな支援ができるだろうか」と検討したりする支援ツールとなります。PDF版をWebサイトからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

[http://www.chiiki-shien.jp/resource.html#a\\_tool](http://www.chiiki-shien.jp/resource.html#a_tool)

(報告:生島/大槻)

## ネストより 第8回 Women's Salon「川名奈央子さんと話そう Part 2」

女性陽性者のために様々なゲストをお迎えしてお送りするWomen's Salonの第8回目。川名さんはアジア太平洋地域HIV陽性者ネットワーク(APN+)の共同代表、日本HIV陽性者ネットワークJaNP+の国際担当、会社員でもあり、中学生のお母さんでもあります。好評にこたえてのPart 2の報告と参加者の感想文です。

3月14日に第8回のWomen's Salon「川名奈央子さんと話そう Part2」が開かれました。参加者は8名、川名さんやスタッフあわせて女性ばかり12名で、お茶を飲みながらわいわいとお話する、そんな会になったと思います。

話題にあがったのは、家族や友人、ママ友に感染していることを伝えているかいないかといったことについて、通院している病院について、婦人科検診について、服薬や副作用についてなど様々でした。話はとぎれることなく、一つの話題が終わってもどんどん次のお話につながっていく、仲の良い友人とすごすティータイムのような感じでした。予定されていた時間はあっという間に過ぎていき、終了したときにはさびしい思いもありましたが、元気になれたという思いもほんわかと残りました。皆さんと過ごせた時間は、とてもあたたかく、安心できた贅沢な時間になりました。

(Women's Salonスタッフ 佐藤 由加)

### 参加者感想文

「おだやかな午後のお茶会に参加して」 たま  
奈央子さんの気さくな自己紹介から始まり、そのあと参加者全員の素直な気持ち溢れた会話が自然に流れるように続いて、私もその会話の中にどんどん引き込まれていきました。家族への告知、服薬、恋愛、今の日常生活、様々な出来事の悩みを打ち明け、相談しあったり、それぞれの体験に共感したりしているうちに心が、和んでいきました。お茶とお菓子に伸びる手も忙しくなり、ずっと以前からの友達同士の中にいるような安心感が湧いてきました。

こんなに多くの女性と出会えたことに感謝します。私

はこれから服薬を始めます。不安いっぱいでしたが、皆さんに頑張ってね！と声を掛けていただき、気持ちが落ち着きました。暖かい気持ちをありがとう。またいつか今日のようにおもいきりお喋りして、笑いたいのので前に向かって生きて行きます。ぶれいすさん、ありがとうございました。またこんな素敵な会が開かれることを期待しています。

「今は落ち着いて過ごせている事を実感しました」 Eri

確か、数年前のPART1の時には、藁にもすがりたい気持ちで参加させていただいた記憶があります。当時は、同じように子育てをしている方と知り合う機会が無く、先の事を考えると不安ばかりが先走ってやりきれなかったような…。そんな中で出会った川名さんは、決して暗い表情ではなく、子育てだけでは無く仕事や余暇も楽しんでいらっしゃる様子でしたので、正直私の目には別世界の方のようにうつりました。しかし、その笑顔が私の希望となりました。

それから数年。今は自分も一緒に笑って参加出来ることに改めて気が付きました。時間が解決してくれた部分もあったのかもしれませんが、人と出会うことで得られるパワーって本当に凄い！というのが率直な感想です。

今回もお互いの悩みを共有したり、疑問に思う点について教えて頂いたり、私にとっては大変貴重な時間となりました。きっと抱える事情は様々かと思いますが、またこういった機会にそれぞれが何かの形で支え合う事が出来ればいいと思います。あたたかいお時間を頂けた事に、心から感謝します。

## インタビュー集「HIVをめぐる さまざまな人たち」

ぶれいす東京のNewsletterに連載してきたシリーズ「難しさと向かうこと」と、新たにインタビュー収録したもの中から、2004年2月～2009年10月に収録されたインタビュー6編を選びすぎて一冊の本にしました。

HIVに影響を受けたさまざまな人たちのインタビュー集を発行しました。

ほんの小さなウイルスがきっかけとなって、それぞれの人生に展開するさまざまな物語があります。HIVに影響を受けているのは、陽性とわかった人だけではありません。ここでは、さまざまな関わりの中でHIVを自分ごととして捉えている人たちの語りをお届けします。また、インタビューの中には地域社会のさまざまな立場の人が登場します。人と社会の関わりの中にこそあるHIVの課題が見えてくることでしょう。(文責：矢島)



### 目次

- 第1話 人生設計をしなおすということ
- 第2話 人事担当者の新たなるチャレンジ
- 第3話 母親と息子のそれぞれの葛藤
- 第4話 福祉事務所で免疫機能障害を担当して
- 第5話 “偽陽性”という結果に振り回されて
- 第6話 いくつもの病気をもちながら地域で暮らす

# 部門報告

## (2010年1～3月)



### ホットライン

エイズ電話相談 ぶれいす東京および東京都委託)

#### 相談実績報告

##### —ぶれいす東京エイズ電話相談—

	1月	2月	3月
日数(日)	4	4	4
総時間(時間)	16	16	16
相談員数(延べ人)	5.5	6	4.5
相談件数(件)	44	45	43
うち(男性)	34	36	33
(女性)	10	9	10
(不明)	0	0	0
陽性者相談	0	2	0
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	11.0	11.3	10.8

##### —東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	1月	2月	3月
日数(日)	12	12	12
総時間(時間)	36	36	36
相談員数(延べ人)	31	34	33.5
相談件数(件)	294	237	228
うち(男性)	258	191	188
(女性)	34	40	36
(不明)	2	6	4
陽性者相談	0	5	0
要確認相談	0	1	0
1日平均(件)	24.5	19.8	19.0

#### ホットライン部門・活動状況 ( )内は出席人数

- 1月 8日 電話相談年始め  
 15日 東京都電話相談連絡会(3名)  
 17日 世話人会(8名)  
 スタッフミーティング(20名)  
 26日 活動報告用入力ミーティング(4名)
- 2月 12日 東京都電話相談連絡会(3名)  
 19日 記録票入力打ち合わせ(2名)  
 21日 世話人会(6名)  
 スタッフミーティング(21名)
- 3月 12日 東京都電話相談連絡会(3名)  
 21日 世話人会(4名)  
 スタッフミーティング(19名)  
 29日 東京都ボランティア研修会  
 「HIV陽性者の生活と就労」(4名)

2010年の年初から相談件数が増加して、活気を取り戻した感があります。昨年春頃から世間を騒がせていた新型インフルエンザ騒ぎが一段落。ただ本当に忙しかったのは1月だけで、2月以降は落ち着きました。また研修を終えたフレッシュなスタッフが相談を始めています。

(報告：佐藤)



### バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

#### バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

第1木曜(偶数月) 第1土曜(奇数月) 11:00～、  
 第3木曜 18:30～

1/9	3人	1/21	6人
2/4	4人	2/18	5人
3/6	3人	3/18	3人

個別のミーティング(1月～3月) 6件

#### 利用者数

7カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の11名の方に18名のバディスタッフを派遣

#### 活動内容(2010年3月末現在)

派遣継続中	17件
在宅訪問	10件
病室訪問	1件
派遣休止	5件
検討中	1件

#### 1月～3月中の動き

・派遣調整 5件

#### 今後のミーティングの日程

午前ミーティング 11:00～13:00

5/1(土) 6/3(木) 7/3(土)

午後ミーティング 18:30～20:30

5/20(木) 6/17(木) 7/15(木)

#### バディの現場から

年度末の集計作業にあたり、活動記録を見直しています。記録からは、それぞれのバディが日頃の活動を、利用される方のことを考えながら行っている様子が浮かんできます。活動いただいているみなさま、いつも協力いただきありがとうございます。集計した結果については、活動報告書で見いただくこととなります。ぜひ手にした際はご覧ください。

3/28のお花見に1名のバディ利用者の参加がありました。当日は寒かったのですが、雨がふらず何とか無事に終了しました。協力いただいたバディの方ありがとうございました。(報告：牧原)



1～3月新規相談の内容(N=86)

【ミーティング/ネスト利用等】

- ・地元で風邪からスタート。自分で検査へ。ネストに来所希望。(信越/北陸)
- ・母親から。10代の息子が感染。もめんの会に参加希望。(2件)
- ・PGMに参加希望。怪我の術前検査で陽性と判明。SNSで他の陽性者と知り合い連絡をした。
- ・他の人がどのようにしているのか知りたい。PGMに参加希望。(3件)
- ・ネストのオリエンテーションで来所。(東海)
- ・保健所で先月、陽性と判明。最初は戸惑っていたが今は落ち着いている。(PGMオリエン)

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・感染がわかって数か月。社会参加している人とライブプラン等について話をしたい。
- ・パディを利用してみたい。
- ・パートナーが感染。PGMについて情報が欲しい。
- ・病院Ns.より紹介。外来後にぶれいす来所希望。
- ・退院して生活リズムが崩れて来たために病院Ns.から紹介を受けた。
- ・外来Ns.からの情報提供。引きこもりがち。
- ・がんの術前検査で感染が判明。対面相談を受けたい。

【検査や告知】

- ・コンジロームの治療中に検査を勧められて陽性と判明。
- ・年末にクリニックの迅速検査で要確認、結果待ちの状態。男性の偽陽性の確率は?(信越/北陸)
- ・バーでクリニックを紹介され迅速で陽性。「たんぼぼ」をみて電話をした。
- ・キットで調べたら陽性。近医でも陽性。自分で調べて相談をした。
- ・気になる行為があり迅速検査を受けたら陽性。結果が不安。(中国/四国)
- ・確認検査で陰性という結果になる可能性はどれくらいか。
- ・病院でスクリーニング検査を受けて陽性。他に検査方法はなにか。(九州/沖縄)

【人間関係】

- ・最近つきあい始めた彼氏から通知。情報を増やしたい。
- ・パートナーの陽性が判明。今後の事が知りたい。(2件)
- ・数週間前に判明。田舎なので誰にも話せず閉塞感があり孤立している。(九州/沖縄)
- ・昨年夏に告知。元彼に検査を勧められていた。向きあうのに時間がかかった。
- ・息子の陽性が判明。どうしたらいいのだろうか。(北海道/東北)
- ・家族の感染が带状疱疹で判明。眼に影響が出ているので将来の生活への影響が心配。
- ・友人の感染がわかって混乱している。自殺しないか心配。不安。(近畿)
- ・女性から。パートナーが数日前に陽性と判明。驚いて

いる。

- ・陽性者で鬱がある。10年来の彼氏とのことで相談。彼を失ったら再び人間関係を作る自信はない。
- ・陰性パートナー。少し前に彼氏から陽性だと告知を受けた。ウイルスが少ないから感染の可能性は低いとコンドーム不使用。不安。
- ・数年来の彼女が術前検査で判明。バイのため彼氏も同じ病気で入院中。
- ・パートナーの感染が判明。知人の医療者が検査。検査結果は自分が伝える。どう伝えたらいいだろう。
- ・パートナーから感染を通知された。自分でも心あたりはあった。
- ・付き合っていた彼氏が陽性だった。相手の親からメールをもらい今回の事が判った。
- ・パートナー候補が陽性。これから付き合っていきたいと思うため情報が欲しい。
- ・外国人のパートナーからHIVだと知らされた。HIVに関する情報が欲しい。
- ・自分はB肝で入院中。パートナーに検査を勧めたところ陽性と判明。パートナーのことが心配。
- ・彼氏から陽性と通知。コンドームなしのフェラチオあり。感染が心配だが彼氏には言えない。(近畿)
- ・夫の感染が最近判明。会社に伝えるべきか。自分と子どもは陰性。誰にも相談できない。
- ・外国人のパートナーが陽性と判った。日本で治療をさせるにはどうしたらいいか。

【心理的なこと】

- ・精神科に入院する際、実施された検査で陽性と判明。何度か検査しようとしたが怖かった。
- ・4日前、保健所での迅速で陽性と判明。不安な様子。
- ・鬱傾向。現在の不安はHIVで体がどうなるかということ。

【医療など】

- ・術前検査で陽性と判明。子どもに感染していないか心配。(近畿)
- ・服薬して1年経つ。HIVの症状について聞きたい。
- ・日常生活での感染の可能性について聞きたい。
- ・統合失調症の友人の相談。精神科閉鎖病棟から転院を促されている。病院情報が欲しい。
- ・近医で風邪と診断されたが薬疹あり。別の病院の皮膚科で検査を依頼。陽性と判明。主治医からパンフレットをもらった。

【生活や福祉】

- ・感染から1年が経過した女性。あまり経験が多くない拠点で判明。求職活動中。
- ・陽性者で事業を行っている。確定申告の事について聞きたい。
- ・生命保険の事で聞きたい。年金型のようなものに入りたいと考えている。感染判明して10年経過。
- ・今後の経済的なことが聞きたい。他の人はどうしているのか。

- ・海外から帰国中に感染判明。外来Ns.の紹介で連絡。今後のことを相談したい。
- ・身近な人が検査キットで陽性判明。体調不良が原因で検査をしたらしい。経済的な情報が知りたい。
- ・障害者控除について知りたい。修正申告できるのだろうか？
- ・数ヶ月前からCD4が100台となり服薬開始。主治医は3、4級ならば手帳を取る意味が無いと。(東海)
- ・海外渡航にあたって入国制限をしていると聞いて不安になり相談した。
- ・保健所での検査で陽性と判明。今後の事について知りたい。
- ・献血した結果、陽性と判明。母親から情報提供してもらいアクセスした。
- ・妻の感染が判った。今後の自分の事、医療費のことについて聞きたい。(北海道/東北)
- ・障害手帳・経済的な事・生命保険のことが聞きたい。
- ・薬物について警察の自宅捜索を受けた。弁護士を紹介して欲しい。
- ・カンジダ・肺炎の疑いで検査を受け、告知直後。パニックになっている。経済的な事が不安。

#### 【就労】

- ・友人から陽性だと知らされて相談にのっている。障害枠で求職しているが見つからないらしい。
- ・昨年夏に陽性と判明。今後の就労についての相談。
- ・今後の医療費のこと、また仕事復帰について相談したい。

#### 【専門家】

- ・帰化を考えている人がいる。事例があったら教えて欲しい。
- ・転居検討中のクライアントの代理でMSWから。生活保護の基準、住居のことなどの相談。(九州/沖縄)
- ・拠点病院MSWから。Dr.とコミュニケーションに悩む患者のことで相談。
- ・保健所から。就労相談に来ている人にぶれいすを紹介したい。
- ・近郊の保健センターより。「たんぼぼ」を見てぶれいすを紹介したいと連絡。
- ・保健所から。聴覚の障害もあり、コミュニケーションが上手くとれず伝わらない。どうしたら良いか。

#### 【その他】

- ・帰国を考えているため、日本の状況を教えて欲しい。フリーダイヤルは通じなかった。(海外)
- ・治験(ボランティア)の事前検査で陽性と言われ検査に行ってきた。結果待ちの状態。
- ・友人が針刺し事故を起こした。陽性だったときのことを聞きたい。(北海道/東北)
- ・そこ(ぶれいす)ではSex等の関係がもてるのだろうか？  
(報告：牧原/福原/生島/山本/福長)



## 研究部門

### 厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)

#### 「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」

(研究代表：生島 嗣)

- ・東京都内の行政・民間相談窓口担当者を対象に、HIV陽性者やその周囲の人からの相談に対する準備性向上のための研修会を開催し、52名の方が参加しました(2/10)。くわしくは、2ページの記事をご覧ください。
- ・東京都の特別区生活保護担当係長会議幹事会および障害者就労支援関係機関意見交換会にて、地域の相談機関におけるHIV陽性者への相談対応に関する調査とHIV陽性者の就労と社会参加に関する調査の結果報告と、準備性向上のための研修のプレゼンを行いました(2/24・3/11)。
- ・冊子「15人の語りで学ぶHIV陽性者と地域生活—事例から支援を考える—」を発行しました。くわしくは、2ページの記事をご覧ください。(報告：大槻)

### エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー：市川誠一)

#### MSM首都圏グループ

- ・エイズ発症予防キャンペーン「できる！」キャンペーンのプログラム立案、検討を進めています。Kick offとして、本グループの活動報告・意見交換会を5月に予定しています。
- ・ゲイ雑誌など、ゲイメディアに関わる人たちを対象とする、HIV/エイズの現状を伝えるターゲットグループミーティングを1/11および2/22に実施しました。
- ・バーのマスター・スタッフ対象の情報紙「TOMARI-GI」6号を3月に発行しました。
- ・2009年度の携帯電話アンケートの集計速報についてweb上(<http://www.real-it.net/survey/>)での報告を開始しています。またLiving Togetherのど自慢(5/30)にて、報告を予定しています。(報告：岩橋)

#### MSM京阪神グループ

##### 「陽性者サポートプロジェクト関西」

- ・Webサイト：遅れていたWebのリニューアル作業が完了しアップ予定。
- ・POSP電話相談(HIV陽性とわかったひとのための電話相談)：相談員が4人体制に。  
1～3月：5件(家族2、スクリーニング陽性1、対象外2)
- ・ひよっこクラブ(ポジティブとわかって間もない人のための、全3回隔週で開かれる少人数制のグループミーティング)：第2期が1月～2月に行われ、参加者5人全員全回参加にて修了。3月4日に振り返りミーティング開催。第3期を6月より開始予定。ひよっこクラブの立ち上げ支援が一段落し、運営委員会から矢島が卒業。戦略研究期間中はアドバイザーとして振り返りミーティングに参加予定。(報告：生島)

# 特定非営利活動法人ぷれいす東京

## 2009年度総会・活動報告会のご案内

恒例の総会・活動報告会を今年も開催します。部門報告は、それぞれの部門から日頃の活動を現場感覚いっぱいにお届けします。多様なスタッフの登場が活動の広がりを感じさせてくれます。

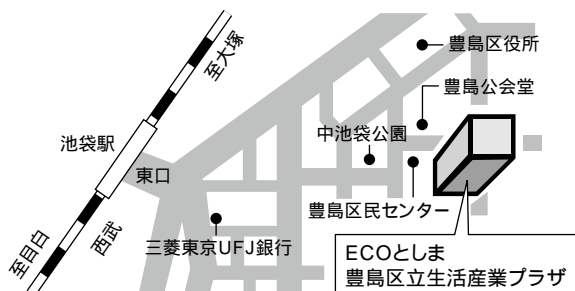
トークコーナーのゲストは、うつつあきこさん。ホームレスの当事者とともに活動してきた経験を中心に、女性として保健師として感じていることをお話いただきます。

皆様、お楽しみに、ぜひご参加ください。

開催日

2010年5月29日(土)

会場 豊島区立生活産業プラザ『ECO としま』  
多目的ホール(8F) 豊島区東池袋1-20-15



第1部 総会 17:40 ~ 18:10

\* 総会の議決に参加できるのは正会員のみです。活動会員、賛助会員の皆様も総会にご出席いただけますが、議決権はありません。あらかじめご了承ください。

第2部 活動報告会 18:30 ~ 21:00(開場は18:15)

・あいさつ

・部門報告

ホットライン、Peer Empowerment Program、パディ、ネスト/PGM、Gay Friends for AIDS、HIV 陽性者への相談サービス、研究/研修部門

・トークコーナー うつつあきこさん

(特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい)

\* 活動報告会はどなたでも参加できます。ぷれいす東京の会員・賛助会員・寄付者・ネスト利用者・招待者は無料。それ以外の方は、資料代として1,000円いただきます。

\* 21:30より懇親会が開催されます。どなたでも参加できます。会費制。

\* 当日の連絡は下記携帯電話までお願いします。(電話番号が変わりました)

ぷれいす東京携帯電話 080-5387-8341(17:00より)

## ぷれいす東京写真館



今年のお花見は「1.5分咲き」で「寒中花見大会」に。でも、63名もの参加がありました。あったか~いおでんが大人気!

FITチャリティ・ランの授与式。真ん中に抱えられているのが寄付金総額を表示した大きな小切手。



### 編集後記

- ・マイブームは麻の衣類! ちょうど近所にオープンした無印良品でお手頃なのがあって、いろいろ買ってみました。麻の布は夏は涼しく・冬は暖か・邪気を受けない・電磁波もカットする...とか?(こんどう)
- ・知人から教えてもらったポスターのメッセージ。If one of us does, We all have AIDS. という言葉がある。誰か個人の責任ではなく、社会の問題としてエイズを扱う大切さを教えてくれる。(いくしま)
- ・冊子制作、活動報告書、Newsletter5月号が同時進行するこの時期は、目と腰が悲鳴を! こんなときは、近くの公園で伸びをして深呼吸、新緑が美しいです。(やじま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス 204

TEL: 03-3361-8964(月-金 12:00 ~ 19:00)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: info@ptokyo.com

ぷれいす東京 HP: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>

web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>